



新年明けましておめでとございませう。
輝かしい新春を希望に満ちて健やかに迎えたいと思っております。今年こそ市民の皆様にとりまして、平和で幸多き年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、金融破たんや企業の倒産、狂牛病問題が続き国内景気は一段と悪化いたしました。更に、IT不振に米中枢同時テロの悪影響が重なり世界経済は、同時減速が鮮明になったといわれ暗いニュー入が続きました。

師走に入り皇太子ご夫妻に待望のお子様 敬宮様 がお生まれになり皇室では、7年ぶりの慶事となりました。国民が祝賀のお慶びにわき、長引く不況に、テロや狂牛病が加わった重苦しさを吹き飛ばし、国全体が良い方向に進む期待が寄せられました。このお慶びを今年もつなげてゆきたいと願うものであります。

町では、スポーツ健康都市宣言、都市計画の決定、計画中であります光中学校の建設工事が着手されることにも、他の事業も計画どおり順調に進みました。また後期基本計画のための町民アンケート調査で、町の行政やまちづくり活動についての情報を「広報紙」から得ている方が約80パーセントという結果が出て、益々重要な役割であると責任を感じているところであります。

本年も、向後町政と市民の皆様とのパイプ役として、町の方針や施策、各種行事として暮らしに必要な事柄を可能な限り掲載するとともに、各種取材を通して多くの皆さんに触れやすい話題も取り上げ、読みやすく、わかりやすい楽しい広報紙となるよう努力してまいりますので、よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。新年のごあいさついたします。



広報委員長あいさつ

パイプ役の広報紙に

委員長 伊橋 佳辰

「走る芸術」「馬の耳に念仏」

馬と聞くとき真っ先に競馬を連想される方も多いと思います。馬同士を走り競わせる行事は、走馬、競馬などといって、奈良時代から行われていました。特に端午の節句（5月5日）の競馬は恒例で、ときの天皇が臨観したとの記録が残っています。

現代では、競馬といえばサラブレッド。より速く走るようにと、品種改良を重ねてつくりあげられた馬です。広い胸幅、よく発達した後軀、四百キロを超す体を支える細い脚。たてがみをなびかせて走る姿は、「走る芸術品」といわれるだけあって、ほれほれとする美しさです。一方で「馬の耳に念仏」「馬耳東風」と、無反応、役立たずの代表のように言われる馬の耳。私たちが何気なく使ってしまう諺ですが、これは誤解と考えてよさそうです。

今年は午年

馬の耳は、前方にある物の距離を測るなど、優れた機能を持っています。「馬の耳に念仏」は、悠然とした馬の姿から連想されたものなのでしょうが、馬にとっては迷惑な話ですね。

馬は、人間の願い事にも関係があります。そう、絵馬です。その昔、神に祈願しでかなえられたとき、神馬とするように馬を献納しました。しかし、貧しい民は馬を納めることができないので、代わりに馬の絵を描いたり、馬の形に作った木片を献じたりしました。それが絵馬の始まりだといわれています。

午年の今年もまた、神社にはたくさん絵馬が献納されることでしょう。一年を健康に、無事に過ごせますように、そして世界に平和が訪れますようにと、心から願わずにはいられません。